

福祉の場で活躍できるネイリスト育成を目指して 「シニアメンタルビューティー協会-SMBA」

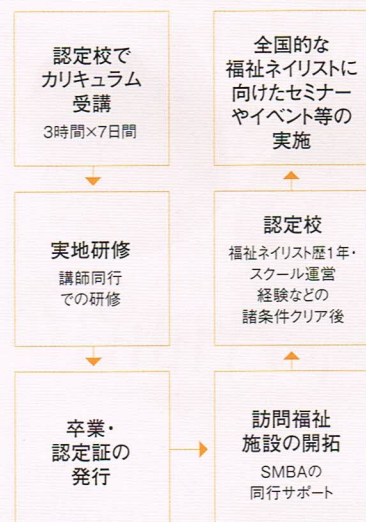
福祉ネイリスト・SMBA認定校になる仕組み

前号でご紹介した福祉ネイリストの普及・育成を行っている「シニアメンタルビューティー協会＝SMBA」。今回は、SMBAのより具体的な内容をお伝えします。まず、福祉ネイリストの育成についてご紹介しします。

福祉ネイリストになるには、SMBAの認定校で一定のカリキュラムを修了し、認定試験に合格する必要があります。合格者は講師とともに実地研修を行った後、晴れて卒業となり会員証を発行。福祉ネイリストとして認定されたこととなります。

現在、SMBAの認定スクールは全7校。大阪3校、広島に2校、和歌山、姫路に1校ずつ。各校で受けられるカリキュラムは3時間×7日間で構成されています。福祉の現状や爪の構造・皮膚科学などの知識から、ケアの練習、爪の病気の理解、マッサージ方法・カラーリングなど多岐にわたります。ネイリストでなくても習得できる内容となっており、ネイリストの方ならよりスムーズに福祉ネイリストに必要な知識と技術を習得できます。カリキュラムの他に、福祉施設へのアポ取りや契約などのフォローや、シニア層に喜ばれる「季節のアートセミナー」を年4回実施するなど、今後も福祉ネイリスト普及の多彩な活動を実施予定です。

●SMBAの流れ(福祉ネイリストの事業展開)



福祉ネイリストは、ネイリストの雇用形態を広げる

福祉ネイリストはボランティアではありません。技術の対価としてしっかりとお金をいただきます。場所やサービスが異なるだけで、本質は普通のサロンワークと同じです。ただし、一般的なサロンワークよりもリーズナブルな分、提供する技術レベルもシンプル

福祉ネイリストは新しい雇用開発の一つになる?!

福祉ネイリストは、ビジネスになるのか?その疑問にお答えするため、続いては福祉施設で提供する施術メニューについてご紹介しします。現在、協会が用意しているメニューは全6種。10本の指にカラーを塗り1本にお花などのアートを施すマニキュアが1,000円。甘皮処理と爪磨きを行うネイルケアは1,500円。人気No.1メニューはハンドマッサージ(約10分)で500円。非常にリーズナブルですが、その理由は「同じく福祉施設で提供されているエステやヘアカットの相場を基に検討」した結果です。また、施術内容もサロンで行う施術と比べるとどれも簡易なもの(たとえばネイルケアでキューティクルニッパーは不使用)となります。マニキュア(カラーリング)は20分、ネイルケアは25分ほどで行われ、10分500円換算で考えられています。実は街中によくある定額制ジェル専門店と比べると効率的だったりします。福祉ネイルは専門職とするのではなく、ネイリストの仕事の一つとして非常に有効ではないでしょうか。最後に、支払い方法についてですが、こちらは施設によって様々。一人ひとりからその場で支払っていただくこともあるし、まとめて施設からお支払いいただくことも。支払い方法は各施設と相談して決めているそうです。

●SMBAネイルサービスメニュー例(一律)

マニキュア(カラーリング)	¥1,000-(約20分)
10本の指にカラーを塗り、1本にお花などのアートを描きます。	
爪磨き	¥1,000-(約20分)
爪の表面をピカピカに磨きます。	
ネイルケア	¥1,500-(約25分)
甘皮処理+爪磨きのお得なメニューです。	
ハンドマッサージ	¥500-(約10分)
ひじから下をマッサージします。	



←爪に色を塗ることに抵抗がある方には、ハンドマッサージが人気。この日取材した施設では、全員が何らかの施術を受けました。



↑アートでは、手書きが喜ばれるが、手軽に楽しめるネイルシールも用意。

福祉ネイルを、ボランティアではなく「仕事」にする価値

「普通のサロンワークでも『ありがとう』と言っていたのですが、福祉施設の方から言っていた『ありがとう』には一層感慨深いものがあります」

そう語るのはSMBA理事長の荒木ゆかりさん。福祉施設に通いはじめて数年が経ちますが、施設を訪れるたびにやりがいを感じています。

ある施設での出来事です。施設に入ってからネイルを諦めたという女性がいました。ネイルサロンに行くことができないし、自分で塗ることさえ困難だから仕方がなかったそうです。だけど荒木さんが施設に訪れるようになってもう一度ネイルが楽しめる、とても喜んでいただけました。ある日、施設が山中にあったため天候不順で到着が遅れました。すると、その方が扉の前で荒木さんの到着を待っていたのです。福祉ネイリストとの出会いで、初めて爪に色を塗ったという方もいます。そんな方も、今では「ネイルをしていないと恥ずかしい」とおっしゃいます。施設の方々にとって、ネイルが人生の喜びとして、かけがえのない存在となっていくそうです。大袈裟かもしれませんが、ネイルを楽しむことが生きがいと言える存在の方もいます。だからこそ、福祉ネイリストはやりがいを感じられるのでしょう。



カラーは肌馴染みのよいソフトなピンク系が好まれる。ただし、毎回同じカラーはしたくない方が多いため、濃淡の異なる様々なピンクを準備。

→施設に来てからネイルをはじめたという方も多く、「ネイルをしていないと落ち着かない」という方も。色が剥がれると自分で塗り直しているそうなので驚きです。



となります。コンテストのようなギリギリまで追求したネイルケアやカラーリングは求められません。それは「生涯ネイリスト」の実現を意味します。

高齢化したネイリストの未来は、経営者になるか講師になるかというのが現実。しかし、福祉ネイリストなら年齢が近いもしくは同年代の方々と相手に、ネイリストとして施術を続けることができます。すな

わち、大好きなネイルを続ける選択肢の一つとなります。また、主婦をしながら限られた時間の中でネイリストをしたいという方を、福祉ネイリスト事業の施術者としてパートやアルバイトで雇うことも。福祉ネイリストは、シニア層にネイルの喜びを伝えるだけでなく、ネイリストの高齢化問題の解決にも繋がる可能性を秘めています。